

浙江省 2013 年 4 月高等教育自学考试
日本文学选读试题

课程代码:00612

请考生按规定用笔将所有试题的答案涂、写在答题纸上。

选择题部分

注意事项:

1. 答题前,考生务必将自己的考试课程名称、姓名、准考证号用黑色字迹的签字笔或钢笔填写在答题纸规定的位置上。

2. 每小题选出答案后,用 2B 铅笔把答题纸上对应题目的答案标号涂黑。如需改动,用橡皮擦干净后,再选涂其他答案标号。不能答在试题卷上。

一. 次の文の____の部分に入れるのに最も適切なものを、A・B・C・D から一つ選びなさい。(2点×10=20点)

1. 夏目漱石の_____は「上 先生と私」「中 両親と私」「下 先生と遺書」の三部から成り立っている。
A 「坊ちゃん」 B 「三四郎」 C 「こころ」 D 「それから」
2. 39年の生涯で4回の自殺未遂を繰り返し、1948年に愛人との入水心中により命を立った作家は_____である。
A 川端康成 B 大宰治 C 堀辰雄 D 芥川龍之介
3. 「奥の細道」は_____の紀行文である。
A 吉田兼好 B 松尾芭蕉 C 紀貫之 D 鴨長明
4. 「_____」の歌風の特色は、傾向の面から見ると、素朴・率直・写实的・男性的・現实的などがあげられる。
A 万葉集 B 古今集 C 新古今集 D 千載集
5. 瀬戸内寂聴は_____の嵯峨野に「寂庵」を建てた。
A 奈良 B 京都 C 鎌倉 D 東京
6. _____は中国大陸や西域を題材にした「天平の甕」「楼蘭」「敦煌」など書いた。
A 桑原武夫 B 井上靖 C 東山魁夷 D 森本哲郎
7. _____の作品は私小説、心境小説と呼ばれるものが多いが、その簡潔で厳しい文体は近代散文の典型として高く評価されている。主な作品に「暗夜行路」「和解」「城の崎にて」「小僧の神様」などがある。
A 川端康成 B 大宰治 C 志賀直哉 D 夏目漱石
8. 「古池や蛙飛び込む水の音」という芭蕉の有名な俳句がある。この俳句の主役は_____である。
A 古池 B 蛙 C 水 D 音

9. 「羅生門」は_____末期の京都を舞台に、極限に追いつめられた人間の心理を描く小説である。
A 平安時代 B 奈良時代 C 鎌倉時代 D 江戸時代
10. 「羅生門」は_____の作品である。
A 川端康成 B 大宰治 C 夏目漱石 D 芥川龍之介

二. 次の____の言葉の解釈として、最も適当なものを、A・B・C・Dの中から一つ選びなさい。
(1点×10=10点)

11. 私は思わず立ち止まって凝視した。とたんに女たちは泣きやみ、私をきっと睨んだ。
A 確実にそうなるだろうと予測しているさま。
B 自身の事柄に関しては決意を相手に対しては強い要望を表す。
C あることが確実に行われるさま。
D 顔つき、態度がきびしくひきしまるようす。
12. 楽器を見るとすぐいたずらしたくなる性分である。
A 生まれつきの性質 B 物事に接した時に生じる感じ
C 物事に対する心のもち方 D その物事に対して誰もがもつ、特有の心の状態
13. 彼は危機一髪のところだったとあって、父親の非道を鳴らした。
A 音が出るようにした B ある優れた能力によって評判をとった
C 強く言い立てて責める D 何かを要求しようとして、甘えた態度を取った
14. 「お前はよくしゃべる明るい子だったよ、どうして?なぜってひっきりなしにきくんだった。
A 申し訳なく B 絶え間なく C しょうがなく D 間もなく
15. 今宵は客もあまりないとみえて、うちもひっそりとして、おりおり雁首の太そうな煙管で火鉢の縁をたたき音がするばかりである。
A 次第に B だんだん C ときどき D ひとつひとつ
16. 「なぜですか。もし質問してよければ」と男は重々しく考え込みながら言った。
A きわめて大事である B 態度が落ち着いて堂々としている
C 動きが鈍い D 重要である
17. 女は急に馴れ馴れしく玄関に入って来ようとする。
A 歩き方がしっかりしていない B 様子や行為が不愉快である
C 何度も経験してうまくできるように D あまりに遠慮がなさ過ぎる
18. 丁度、庭の真中で天心の月を仰ぎ、心が月のように無心になっていた時、電話が鳴った。
A 心が無いこと B 邪念がないこと
C 遠慮がないこと D 思いやりのないこと
19. だしぬけに障子を開けて一人の男がのっそり入ってきた。
A ゆっくり B いきなり C 静かに D 軽く
20. いつも古本屋をひやかすのが目的でした。
A 冷静になるようにする B 冷えるようにする
C 買うつもりがないのに品定めをしたり、値段をきいたりする
D 買うために品定めをしたり、値段をきいたりする。

非选择题部分

注意事項:

用黑色字迹的签字笔或钢笔将答案写在答题纸上,不能答在试题卷上。

三. 次の文の____の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

(1点×10=10点)

21. 文学者はもともと精神の束縛を持たぬ自由人でなければならない。
22. 未来への憧憬の道、また過去への郷愁を誘う道にもなった。
23. もうすっかりひとの気配もなくなった。
24. 万卷の書物を読破する。
25. その後何かの交渉が続かなければ、名前も顔も忘れてしまうのがふつうです。
26. それは当事者にとっては深刻でも、第三者には他愛ないことである。
27. その遺言によって湖岸に葬られている。
28. 美を求める心。
29. 今の物理学者にとって最も分からないのは、素粒子なるものの正体である。
30. 少女が物心ついた時から戦争をしていない時は一日もなかった。

四. 次の1から3までの文章を読んで、それぞれの問いに答えなさい。

..... 前略.....

インタレスト

ここで、読者に迎合した外的なおもしろさでなく、①内からおのずとおもしろさを見出させるものは何か、またその内なるものというのが、はたして人生に必要なものであるかどうか、を少し②立ち入って考えてみなければならない。わたしは誤解をおそれずに「おもしろい」という俗っぽいことを使ってきたが、それは「おもしろおかしい」というような意味ではなかった。フランス語で言えば《amusement》ではなく《interessant》を意味していたのである。(英語の《amusing》と《interesting》にあたる。以下は英語を使うことにする。)③アミューズメントといえ、ただおもしろおかしいことで、つまりこちらはじっとしていても相手が楽しませてくれる、受動的な感じがするが、優れた文学におもしろさを感じるというのは、むしろ能動的にわれわれが作品と協力し、しかもそこに楽しさを感じることであり、そこには必ず緊張感がある。わたしはそういう意味で④インタレストということばを「おもしろい」と言い表してきたのだ。《interesting》ということばは《interest》を語源とし、インタレストを与える、もたせる、という意味である。そしてインタレストは「興味」であると同時に「関心」であり、さらに「利害感」でさえあって、それは行動そのものではけっしてないが、なにもものかに働きかけようとする心の動きであって、必然的に行動をはらんでいる。そしてインタレストのないところに行動はありえない。

..... 後略.....

(桑原武夫『文学入門』より)

問い31. 傍線部①内からおのずとおもしろさをしみ出させるものは何か。文中から探して五字で答えなさい。(3点)

問い32. 傍線②「立ち入って」の解釈として、最も適当なものを一つ選びなさい。(2点)

- A ある場所の内部へ入って B かかわりあって、干渉して
C 核心などに深く入り込んで D 別の場所へいって

問い33. 傍線③アミュジングと④インタレスティングの最大の違いは何か。それぞれ文中の二字の熟語で答えなさい。(3点×2=6点)

アミュジングは_____ 的で、インタレスティングは_____ 的である。

問い34. 優れた文学の特色は何か。文中のことばを使って簡潔にまとめなさい。(5点)

..... 前略.....

年月というものは、すべてのものを美しくする。それは魔術師のように巧妙で、鮮やかである。

年老いた人はみな、自分の青春時代を、古きよき時代という。

八十年代の人は大正を、六十年代の人は昭和初期を、そして四十年代の人は、あの
大戦と、それに続く暗い年代をさえ、よき時代という。

それはみな過去というベールを透かしてみた時の感傷で、その時点からの見方ではない。

それは過ぎた青春へのノスタルジイで、その意味で、一方的で①ナルシスティックなものである。

だからこそ、ある人が、自分たちの青春が素晴らしかったことをいかに熱心に説明したところで、ほかの世代の人に、何の共感もよばない。

冷ややかな言い方をすれば、自己陶醉としかうつらない。

恋の別れも、それに近い。

いま僕は、K 子さんとの別れを、甘く美しいものとして回想できる。

二人は愛し合っていたが、互いの立場を理解して別れたのだと思い込む事ができる。

それはまさしく、思い込むという言葉が当たっている。年月の風化が美しいものに過去をすり変えた。

だが、別れの実態はそんな美しいものではなかった。互いに傷つけ合い、罵り合い、弱点をあばき合った。

とことん、相手がぐうの音も出ないほど、いじめつけて、そして自分も傷ついた。

愛した人との別れは、美しいどころか、凄惨でさえあった。

しかし、それは言い換えると、そうしなければ別れられなかった、ということでもある

..... 中略.....

本当に愛し合った末の別れなら、どんなに傷つけ、罵り合ってもいい。とことん傷つき、そこからもう一度這い上がればいい。

別れるとき、美しいか醜いか、スタイルなどを考える必要はない。無理に美しい別れに②拘泥することはない。

いま無理に別れをつくらなくても、やがて年月が、過去の③ペールを通して、美しく甘い別れに変えてくれるからだ。 (渡辺淳一『美しい別れ』より)

問い 35. 作者は美しい別れがあると思っているのか。 (2点)

問い 36. 傍線①ナルシスティックと同じ意味のことばを文中から探して、四字の熟語で書きなさい。 (2点)

問い 37. 傍線②拘泥すると同じ意味のことばをA・B・C・Dの中から一つ選びなさい。 (2点)

A かかわる B こだわる C こまる D はまる

問い 38. 傍線③ペールを中国語に訳しなさい。 (2点)

問い 39. 作者の言おうとしていることを150字程度でまとめなさい。 (6点)
(句読点は含まない)

ひとすじの道が、私の心に在った。

夏の早朝の、野の道である。

青森県種差海岸の、牧場でのスケッチを見ているとき、その道が浮かんできたのである。

。。。。 中略。。。。

私は、しっとりと潤いのある道が描きたかった。事情を話して牧場へ泊めてもらい朝早く、まだ陽の登らぬうちに、この道を写生した。市川へ帰ってきてからも毎朝、近くの川の堤を歩いて、露に濡れた草むらや、土の色を見ては参考にした。こうして、「道」の制作の準備を進めていった。

道は、歩いてきた方を振り返ってみる時と、これから進んでいこうとする方向に立ち向かう場合がある。私はこれから歩いていく方向の道を描きたいと思った。ゆるやかな登坂に向った時、私達には、これから、そこを歩いていくという感じが起る。それに反して下り坂を見おろすと、今までたどってきた道を振り返った感じになり易い。

この道の作品を描いている時、これから歩いてゆく道と思っているうちに、時としては、今までにたどって来た道として見ている場合もあった。絶望と希望とが織り交じった道、遍歴の果てでもあり、新しく始まる道でもあった。未来への憧憬の道、また、過去へ郷愁を誘う道にもなった。しかし、遠くの丘の上の空を少し明るくして、遠くの道が、やや、右上りに画面の外へ消えているようにすると、これから歩もうとする道という感じが強くなってくるのだった。

。。。。 中略。。。。

人生の旅の中には、いくつかの岐路があり、私自身の意志よりも、もっと大きな他方に動かされていると、私はこの本のはじめの章に書いている。その考え方は今も変わらないが、私の心の中に、このひとすじの道を歩こうという意志的なものが育ってきて、この作品になったのではないだろうか。いわば私の心の据え方、その方向というものが、かなり、はっきりと定まってきた気がする。しかし、やはりその道は、明るい烈しい陽に照らされた道でも、陰惨な暗い影に包まれた道でもなく、早朝の薄明の中に静かに息づき、坦々として、在るがままにある、ひとすじの道であった。

問い 40. 以上の文章は誰の随筆文か。作者の名前を書きなさい (2点×2=4点)

(漢字と読み方。例：田中一郎^{たなかいちろう})

問い 41. 作者の心の中にある道はどんな道か。文中のことばを使って説明しなさい。

(6点)

五. 次の古文を現代口語訳しなさい。

42. 人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香ににほひける (紀貫之)

(5点)

43. 東の野にかぎろひの立つ見えてかへりみすれば月かたぶきぬ (柿本人麻呂)

(5点)

44. 月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老を迎ふる者は、日々旅にして旅を栖とす。 (松尾芭蕉)

(10点)



自考 365
www.zikao365.com